



第148号
平成25年3月25日
田迎校区公民館
館長 東 旭
編集委員
田代 久子 吉住 久江
重安 和弘 西 朝徳
☎378-5878
編集責任 吉野元生

ふるさと創世

(住み良い町にくらしの工夫)

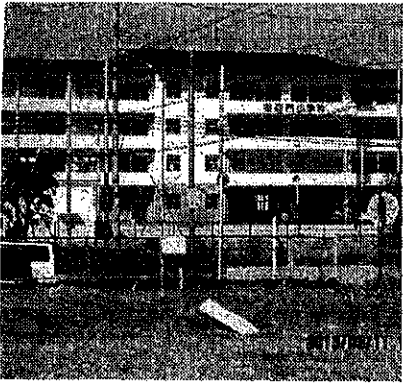
実践項目

校区公民館

- 一、あいさつ運動
- 一、明るい地域づくり
- 一、子供達に夢と誇りを

年頭挨拶

田迎校区自治協議会 会長 西田 耕造



新しい年を迎え心機一転決意も新たにスタートされたことと思います。昨年、田迎校区は南区役所を相談窓口として「まちづくり活動」に移行しました。市行政、学校、各種団体や地域の皆様の温かいご支援とご協力により無事に地域行政ができた事に、共にこの喜びを分かち合いたいと思います。近年、地球規模的な異常な気象等を含め、大きな変革を迎えているように想えます。一方、田迎校区におきましては、「田迎小学校分離新設校」校名を決めるにあたり平成23年10月に実施した新設校の校名の選考に向けた校名アンケートの結果を踏え、期成会案「田迎西小学校」

としました。その後、平成23年12月の教育委員会での審議を経て、平成24年2月市議会に分離新設校の設置条例案が出され平成24年3月21日議決により「田迎西小学校」と決定されました。また、校歌、校章の作成では、平成23年11月25日に期成会に「校歌、校章作成委員会」(期成会、学校関係、PTA、教育委員会)を設置し、委員会にそれぞれ校歌作成部会・校章作成部会を置き、平成24年1月から10月にかけて鋭意作業を進められ、平成24年10月30日期成会に校歌、校章の報告が行われ、承認されました。平成25年4月の開校に向け、正月には校舎・体育館プール等の建物が姿を見せられ、外まわりの工事が行われ、児童の安全な通学路を確保するための施設整備が行われています。新年度から「田迎校区」と「田迎西校区」に別れてのまちづくり活動になりますが、皆様方の益々の健康と発展をご祈念申し上げます。年頭の挨拶といたします。

認知症を予防し元気に暮らそう

二月十日(日)午前十時三十分から田迎公民館において、出前講演会が開催された。当日は、高齢者むけの講演会であったため開催時刻を三十分遅くして開始された。



講師には、みゆきの里認知症対策室、理事長付室長の川畑 智先生を迎えて、「笑顔で 楽しく 認知症予防」の演題で行われた。認知症とは、「脳や身体

の病気が原因で記憶・判断力などの障害がおこり、普通の社会生活が行いにくくなる病気である。必ずやってくる「老化」をどう捉えるかはそれぞれであるが、大抵の人は家族に迷惑をかけたくない、「ピンピンころり」が理想と思っている人が多いと思います。そこで、講演の内容であるが、初めに認知症にならないための予防についてのお話があった。認知症とは、「同じことを繰り返す」「物の名前がすぐに出てこない」などの症状がある。川畑先生は「認知症は、脳の病気である」と話された。認知症は、脳の病気である。川畑先生は「認知症は、脳の病気である」と話された。

感動的だった

二月二十二日(金)田迎小体育館に於いて、新設校(田迎西小)分離のためのお別れの会が行われた。会場には、田迎小に残る児童と田迎西小に行く児童が向かい合って体育館に入場した。周囲を保護者が取り囲み、正面には器楽部の児童が陣取り、お別れの会は開始された。はじめに、校長先生から「田迎小学校は、すばらしい学校である。田迎南とお別れして、今度は、田迎西小とお別れをする。田迎小の良い点を引きついで、新しい学校を作ってほしい。」との話があった。その後、PTA会長と来賓の挨拶があった。引きつづき、六年生児童による「スライドショー」が行われた。全て六年生児童による

お別れの会

の演出であって、感動的なものであった。題は「葉っぱのタツちゃん」とマキちゃんとの友情」の物語である。田迎小での思い出等をスライドで紹介した後、田迎西への別れを時代を追って紹介し、最後に田迎西小に送られる「マキの木」と田迎小の「グスの木」が別れても、いつまでもがんばると風を通



ない「置き忘れ、しまいが忘れが目立つ」等の症状が表われるとの事である。認知症の人は歩き方がわるくなる。指がふるえる。表情がなくなる。との事である。その予防策として、手をあごにおいて「あいうえお」を大きい声で言ったりして、表情を出す顔の動きの訓練をする。また、「パタナラカ」と言う言葉を言ってみて、言いにくくなったら要注意との事である。そこで口のトレーニングをする事によって表情を表わす訓練も大切との話があった。参加者(約50名)は一時間半を大きな声で笑いこぼし、一緒に歌をうたったり、本当に楽しい講演会であった。最後に、構成詩「未来の扉」を全員参加によって合唱する。田迎小の時代の流れに沿って田迎の地に生を受け、ゆるぎない絆をこの胸にあると締めくくり、最後に愛をあげ、うを全員で合唱し、友情の木(マキの木)の贈呈の目録が田迎西小に手渡された。そして、さびしいけれどもさようならでお別れの会は終了した。

